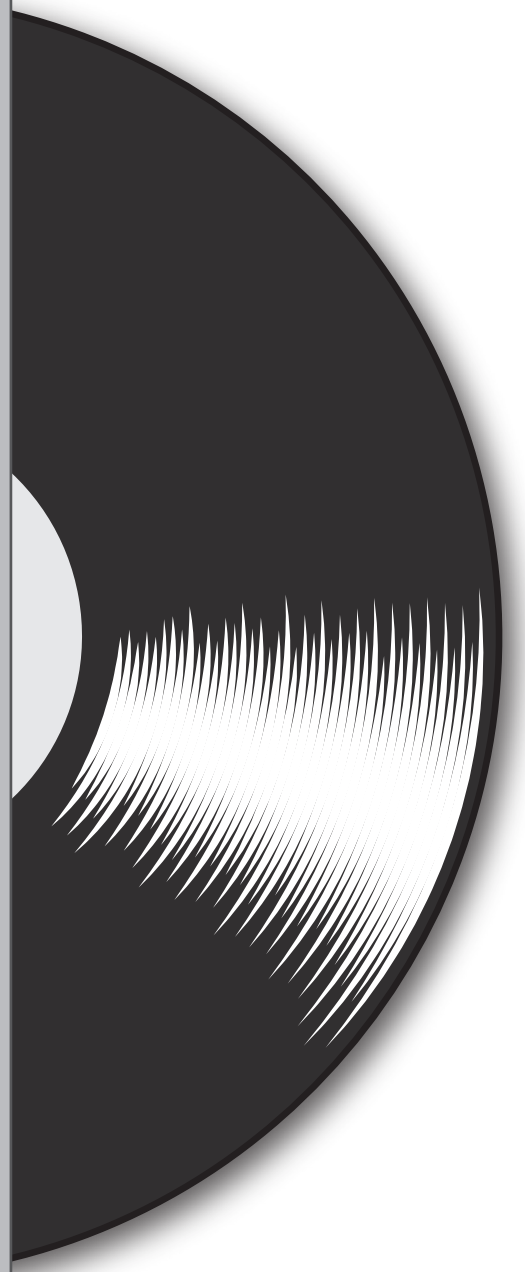
ターンテーブル

TT-S303

取　扱　説　明　書

保証書別添付

YAMAHA



安全上のご注意

ご使用の前に、必ずよくお読みください。

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

- 本機は、ご家庭で音声を楽しむための製品です。
- 本説明書では、本機をお使いになる方のための設置や操作方法を説明しています。
- 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。
- 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

必ずお守りください

ここに示した注意事項は、機器を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

「警告」「注意」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。

記号表示について

この機器や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。


注意喚起を示す記号


禁止を示す記号


行為を指示する記号

- 点検や修理は、必ずお買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。
- 不適切な使用や改造によりお客さまがけがをしたり機器が故障したりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 本製品は一般家庭向けの製品です。生命や高額財産などを扱うような高度な信頼性を要求される用途に使用しないでください。


警告 「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

電源 / AC アダプター


禁止

電源コードが破損するようなことをしない。
- **ストーブなどの熱器具に近づけない**
- **無理に曲げたり、加工しない**
- **傷つけない**
- **重いものをのせない**

芯線がむき出しのまま使用すると、感電や火災の原因になります。


禁止

落雷のおそれがあるときは、電源プラグやコードに触らない。

感電の原因になります。



電源はこの機器に表示している電源電圧で使用する。
誤って接続すると、火災、感電、または故障の原因になります。



ACアダプターは、必ず付属のものを使用する。
火災、やけど、または故障の原因になります。



電源プラグを定期的に確認し、ほこりが付着している場合はきれいに拭き取る。
火災または感電の原因になります。



電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。
万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かないかぎり電源から完全に遮断されません。



雷が鳴り出したら、早めに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。
火災や故障の原因になります。



長期間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
火災や故障の原因になります。

分解禁止



この機器を分解したり改造したりしない。
火災、感電、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。

水に注意



- **この機器の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。**
- **浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところや水がかかるところで使用しない。**

内部に水などの液体が入ると、火災や感電、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。また、ぬれた手でこの機器を扱わない。
感電や故障の原因になります。

火に注意



この機器の近くで、火気を使用しない。
火災の原因になります。

異常に気づいたら



下記のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- **電源コード/プラグが傷んだ場合**
- **機器から異常なにおいや煙が出た場合**
- **機器の内部に異物が入った場合**
- **機器に亀裂、破損がある場合**

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。



この機器やACアダプターを落としたり、強い衝撃を与えたりしないように注意する。落とすなどして破損したおそれのある場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意 「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

電源 / AC アダプター



ACアダプターを、布や布団で包まない。
熱がこもってケースが変形し、火災の原因になることがあります。



電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントを使用しない。
火災、感電、やけどの原因になります。



電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積したりして火災ややけどの原因になります。

設置



不安定な場所や振動する場所に置かない。
この機器が落下や転倒して、けがや故障の原因になります。



天面以外を上にして設置しない。
故障や転倒してけがの原因となることがあります。



塩害や腐食性ガスが発生する場所、油煙や湯気の多い場所に設置しない。
故障の原因になります。



地震など災害が発生した場合はこの機器に近づかない。
この機器が転倒または落下して、けがの原因になります。



この機器を移動する前に、必ず電源スイッチを切り、接続ケーブルをすべて外す。
ケーブルを傷めたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。

聴覚障害



ほかの機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行う。
聴覚障害、感電または機器の損傷の原因になることがあります。



オーディオシステムの電源を入れるときは、アンプやレシーバーをいつも最後に入れる。電源を切るときは、アンプやレシーバーを最初に切る。
聴覚障害やスピーカーの損傷の原因になることがあります。

お手入れ



お手入れをする前に、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電の原因になることがあります。

取り扱い



小さな部品は、乳幼児の手の届くところに置かない。
お子様が誤って飲み込むおそれがあります。



以下のことをしない。
- **この機器の上に乗る。**
- **この機器の上に重いものを載せる。**
- **この機器を重ねて置く。**
- **ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加える。**
- **この機器に寄りかかる。**

けがをしたり、この機器が破損したりする原因になります。



接続されたケーブルを引っ張らない。
接続されたケーブルを引っ張ると、機器が転倒して破損したり、けがをしたりする原因になります。

注意

製品の故障、損傷や誤動作を防ぐため、お守りいただく内容です。

■ 電源 / AC アダプター

- この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。電源を切った状態（電源がスタンバイの状態）でも微電流が流れています。

■ 設置

- テレビやラジオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。この機器またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- 直射日光のあたる場所やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。この機器のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。

■ 接続

- 外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。
  説明に従って正しく取り扱わない場合、故障の原因となります。

■ 取り扱い

- この機器上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。この機器のパネルが変色 / 変質する原因になります。
- 機器の周囲温度が極端に変化して（機器の移動時や急激な冷暖房下など）、機器が結露しているおそれがある場合は、電源を入れずに数時間放置し、結露がなくなってから使用してください。結露した状態で使用すると故障の原因になることがあります。

■ お手入れ

- 極端に温湿度が変化すると、この機器表面に水滴がつく（結露する）ことがあります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。
- 手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナーなどの薬剤、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色 / 変質する原因になります。

お知らせ

■ 製品に搭載されている機能に関するお知らせ

- この製品は、日本国内専用です。
- この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。
- 本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

■ 本製品の銘板に関するお知らせ

機種名（品番）、製造番号（シリアルナンバー）、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号

(bottom_ja_02)

目　次

ご使用になる前に　7

本機の特長 7
本説明書について 7
付属品を確認する 8
レコードの取り扱い 8
各部の名称と機能 9
　上面 9
　背面 10

準備　11

設置する 11
組み立てる 11
　本体の組み立て 11
　ダストカバーの取り付け 13
接続する 14
調整する 15
　針圧の調整 15
　アンチスケーティングの調整 17
電源をオンにする 17

再生　18

必要なとき　21

お手入れする 21
交換する 21
　ベルトの交換 21
　レコード針の交換 22
本機を移動する 22
故障かな？と思ったら 23
主な仕様 25

ご使用になる前に

本機の特長

本機は、アナログレコードを再生するターンテーブルです。

- グロス塗装(光沢塗装)された木製キャビネット
  美しさと高剛性・制振性といった実用性を両立
- 微細な音楽信号への影響を極力排する高い剛性のストレートトーンアームを採用
- 高音質PHONO EQ回路を採用したLINE出力とPHONOダイレクト出力の切り替えにより自由なレコード再生システム構築が可能
- アルミダイカスト製プラッターを高トルク型DCモーターでベルト駆動することにより高い回転安定性を実現
- ハウリング・マージンを確保する振動、衝撃吸収性に優れたインシュレーター(脚部)を採用

本説明書について

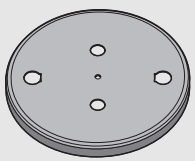
本説明書をお読みになるときは、以下にご注意ください。

- 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。
- 本文で使用されているマーク
  - 「⚠ **警告**」は、死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される内容です。
  - 「⚠ **注意**」は、傷害を負う可能性が想定される内容です。
  - **ご 注 意** は、製品の故障、損傷や誤動作を防ぐため、お守りいただく内容です。
  - **お知らせ** は、知っておくと便利な補足情報です。

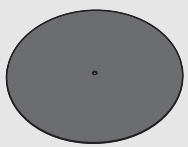
付属品を確認する

すべて揃っていることをご確認ください。

□ ターンテーブル
×1

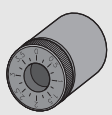


□ ターンテーブルシート
×1

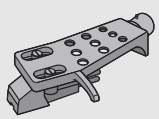


□ ベルト×1
＊ベルトはターンテーブルに取り付けられています。

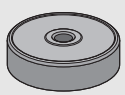
□ カウンターウェイト
×1



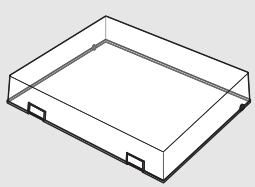
□ ヘッドシェル×1
（カートリッジ付き）



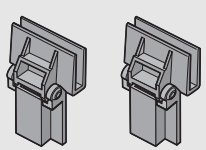
□ EPアダプター×1



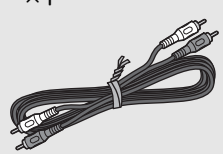
□ ダストカバー×1



□ ヒンジ×2



□ ステレオピンケーブル
×1

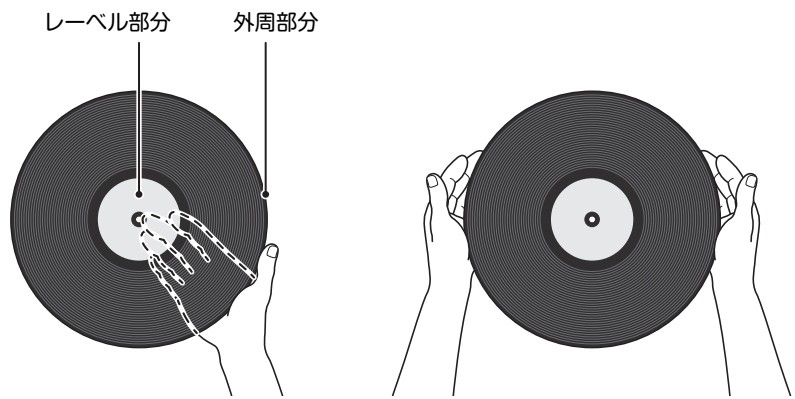


□ ACアダプター ×1
＊詳しくは、同梱の「補足情報」（リーフレット）をご覧ください。

□ 取扱説明書（本書）
□ 補足情報（リーフレット）

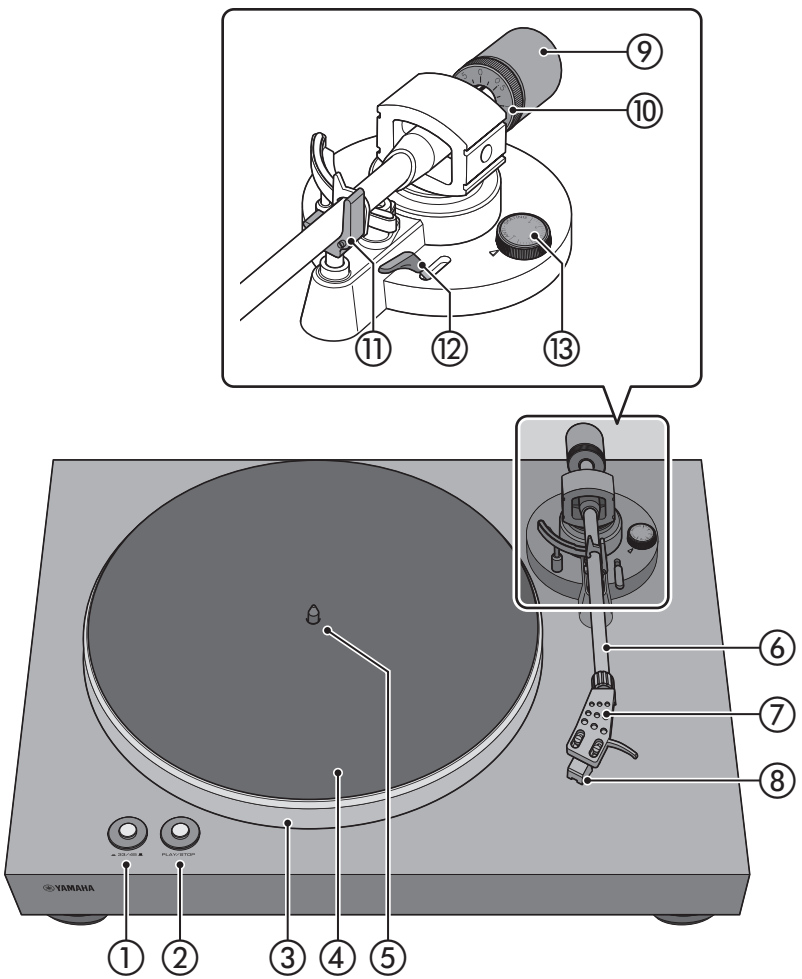
レコードの取り扱い

レコードを持つときは、レコードのレーベル部分と外周部分を支えるように持つか、レコードの外周部分を両手ではさむようにしてください。



各部の名称と機能

上面



① 33/45（回転数切り替え）（⇨ 18ページ）

② PLAY/STOP（再生/停止）（⇨ 18ページ）

③ ターンテーブル（⇨ 11ページ）

④ ターンテーブルシート（⇨ 12ページ）

⑤ センタースピンドル（⇨ 11ページ）

⑥ トーンアーム（⇨ 12ページ）

⑦ ヘッドシェル（⇨ 12ページ）

⑧ カートリッジ

⑨ カウンターウェイト（⇨ 12ページ）

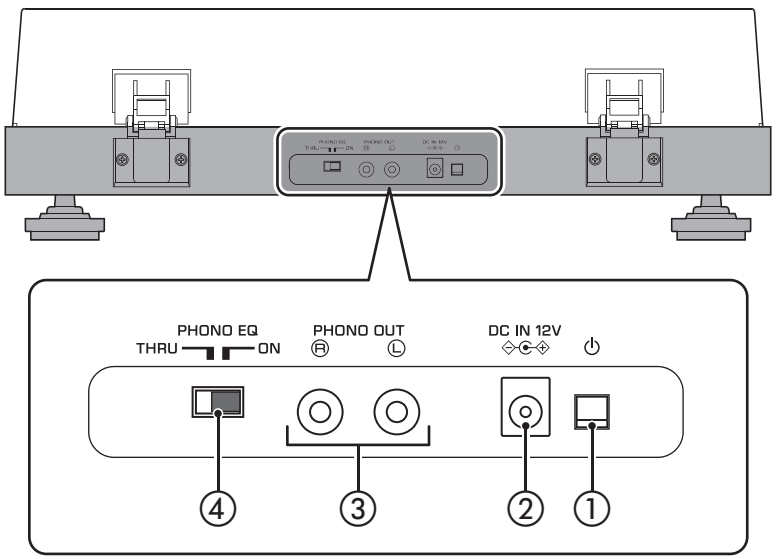
⑩ カウンターリング（⇨ 16ページ）

⑪ アームレスト（⇨ 15ページ）

⑫ リフトレバー（⇨ 19ページ）

⑬ アンチスケーティング（⇨ 17ページ）

背面



① ⏻（電源）

本機の電源のオン/オフを切り替えます。(⇨ 17ページ)

▁▂ ：オン　　▂▁ ：オフ

② DC IN（DCイン）端子

ACアダプター(付属)を接続します。(⇨ 14ページ)

③ PHONO OUT（フォノアウト）端子

レコードの再生音を出力します。(⇨ 14ページ)

④ PHONO EQ（フォノイコライザー）スイッチ

接続する機器に合わせて、本機のPHONO OUT端子から出力される信号を切り替えます。(⇨ 14ページ)

準備

設置する

レコード再生は振動の影響を受けやすいため、外部振動を受けない、水平な場所に設置してください。

また、スピーカーシステムから音圧や振動の影響を受けない位置まで離して設置してください。

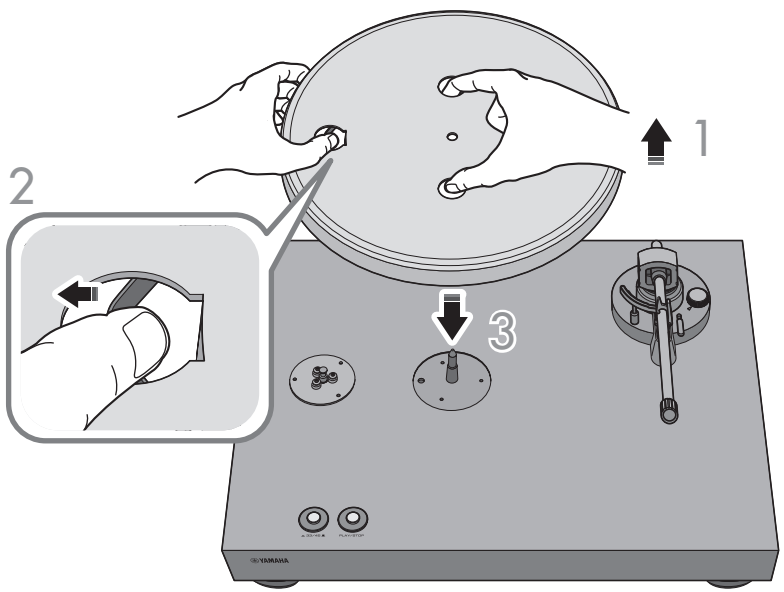
組み立てる

本体の組み立て

1 ターンテーブルを持ち上げる。

2 ターンテーブルの丸穴からベルトを引き出し、指にかける。

3 ターンテーブルをセンタースピンドルに差し込む。



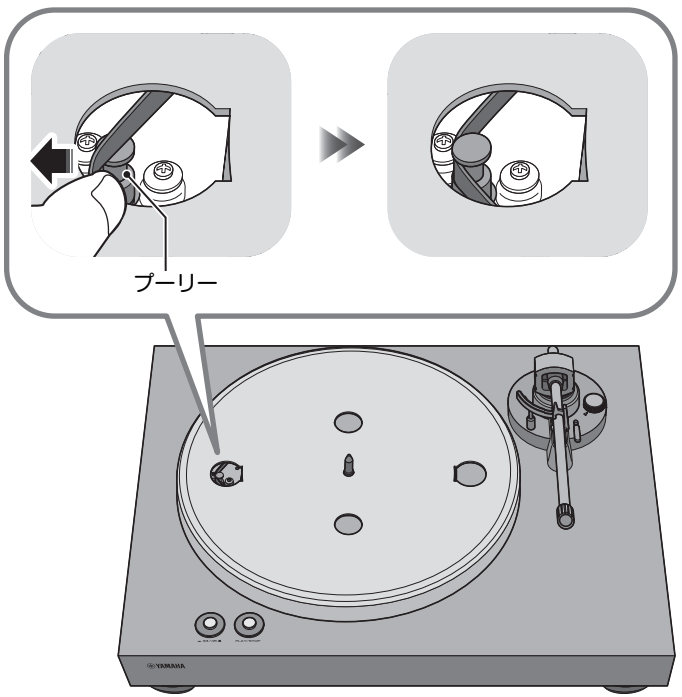
注意

- ターンテーブルを落とさないようにしてください。落とすと、けがをしたり、本機の損傷の原因になります。

4 ターンテーブルの丸穴をプーリーの上に合わせる。

5 ベルトを指でプーリーにかける。

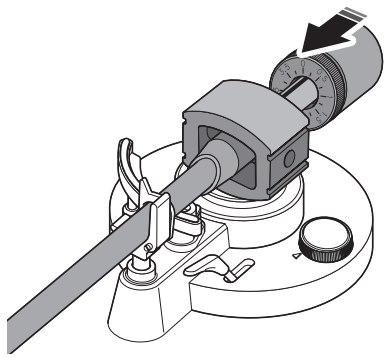
ベルトがねじれないように注意してください。ベルトをかけた後、数回ターンテーブルを回して、ベルトをなじませてください。



6 ターンテーブルシートをターンテーブルにのせる。

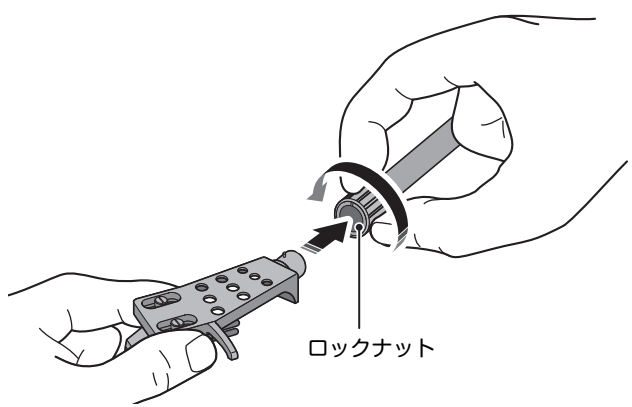
7 カウンターウェイトをトーンアームに取り付ける。

カウンターウェイトの目盛がある側を手前にし、トーンアームの後部に差し込みます。



8 ヘッドシェルをトーンアームに取り付ける。

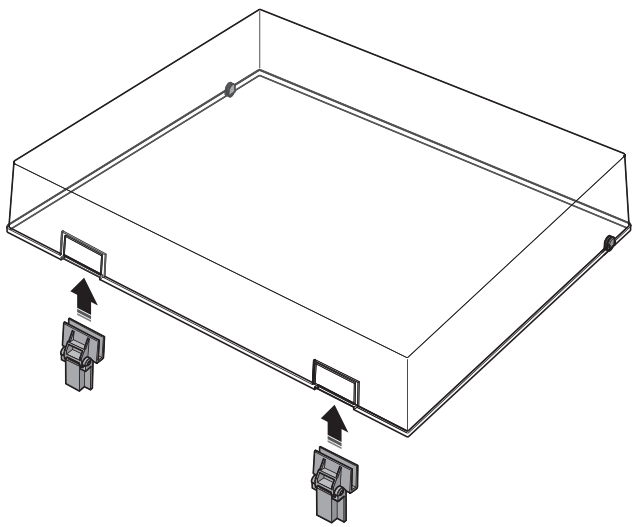
ヘッドシェルをトーンアームの先端に差し込み、ロックナットを回して固定してください。



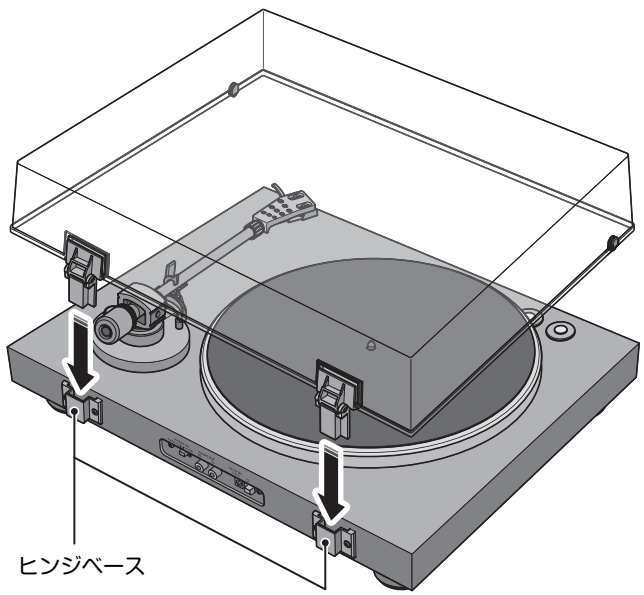
ダストカバーの取り付け

ダストカバーは、本機をほこりなどから守るために使用します。

1 **ダストカバー両端にあるヒンジ差し込み部にヒンジを差し込む。**



2 **本機背面にあるヒンジベースにヒンジを差し込み、ダストカバーを取り付ける。**



お知らせ

- ダストカバーを取り外すときは、ダストカバーの両端を持って、ゆっくり上へ引き上げ、ヒンジごと本体から外します。

注意

- ダストカバーを開け閉めするときは、手や指を挟まないように注意してください。

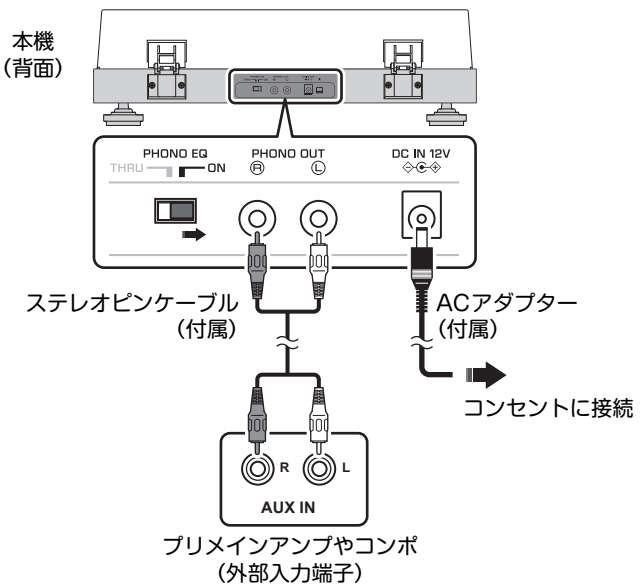
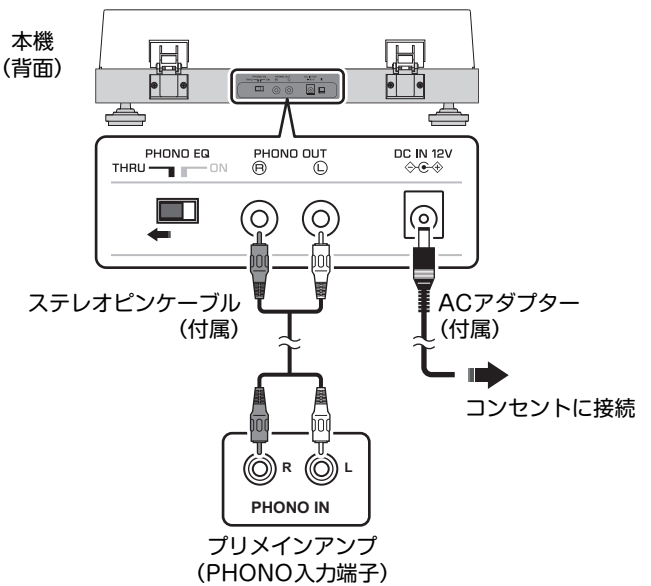
接続する

⚠ 注意

◆ すべての接続が終了してからACアダプター(付属)をコンセントに差し込んでください。

お知らせ

◆ 接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

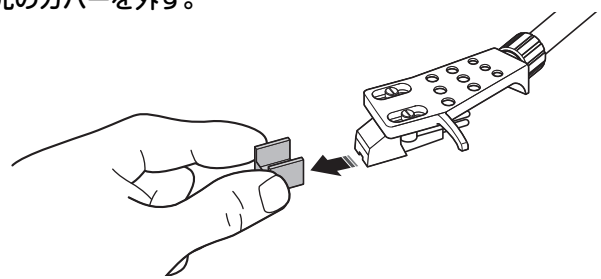
<table>
<tr><td rowspan="2">接続機器</td><td colspan="2">● PHONO入力端子がない機器

</td><td colspan="2">● PHONO入力端子がある機器

</td></tr>
<tr><td>PHONO EQスイッチの設定</td><td colspan="2">ON(初期値)</td><td colspan="2">THRU</td></tr>
<tr><td>本機のイコライザー機能</td><td>有効</td><td>カートリッジの信号を本機に内蔵されたフォノイコライザーで増幅し、PHONO OUT端子から出力します。</td><td>無効</td><td>カートリッジの信号を直接PHONO OUT端子から出力します。</td></tr>
</table>

調整する

針圧の調整

レコードに適正な針圧がかかるようにトーンアームを調整します。

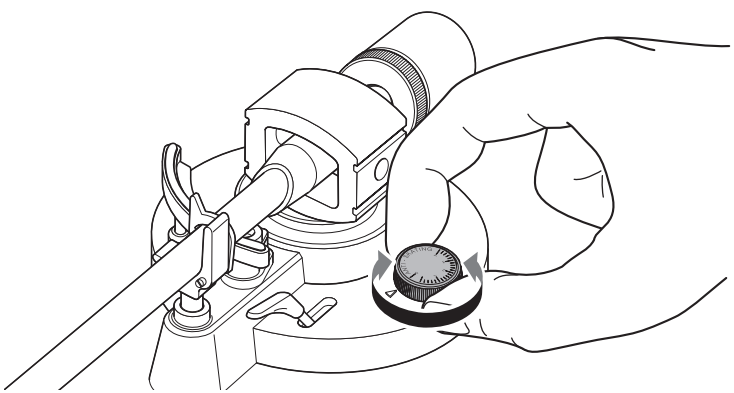
1 **針先のカバーを外す。**



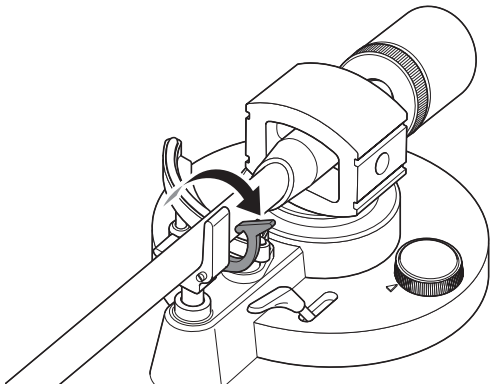
ご注意

◆ 針先のカバーや指が針に触れないように注意してください。

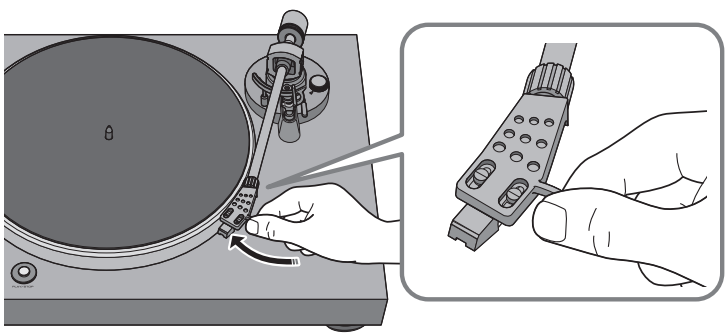
2 **アンチスケーティングの目盛を「0」にあわせる。**



3 **トーンアームのロックを外す。**



4 **トーンアームをアームレストから降ろし、少し左にずらす。**



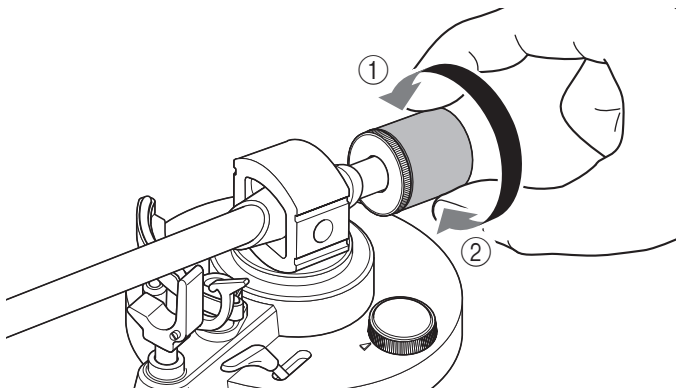
ご注意

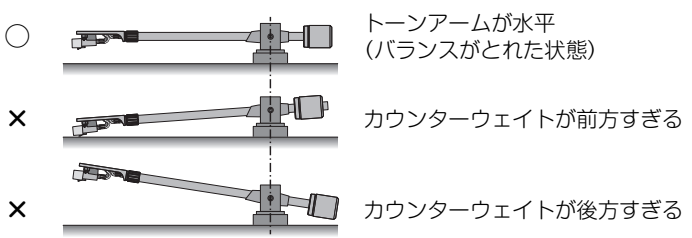
◆ 針が本機に当たらないように注意してください。

5 カウンターウェイトを回して、トーンアームが水平になるように調整する。

①の方向:カウンターウェイトはトーンアーム前方に動く

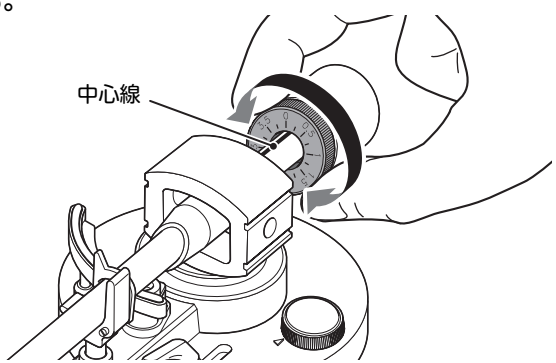
②の方向:カウンターウェイトはトーンアーム後方に動く





6 トーンアームをアームレストに戻し、ロックする。

7 カウンターリングを回して、目盛の「0」をトーンアーム後部の中心線に合わせる。

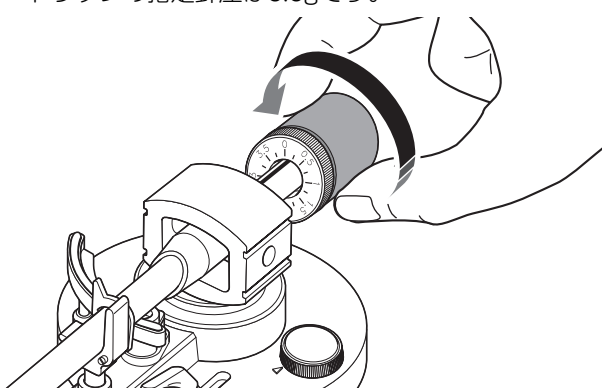


お知らせ

- ◆ カウンターリングを回す際、カウンターウェイトが回らないように指で押さえてください。

8 カウンターウェイトを回して、カウンターリングの目盛をカートリッジ指定の針圧に合わせる。

付属のカートリッジの指定針圧は3.5gです。



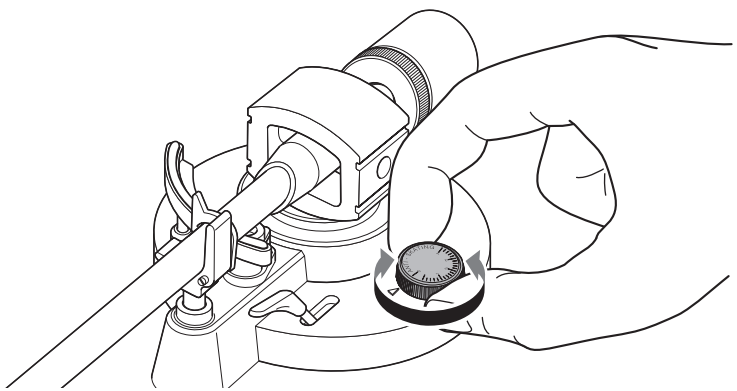
お知らせ

- ◆ カウンターウェイトを回すとカウンターリングも回ります。

アンチスケーティングの調整

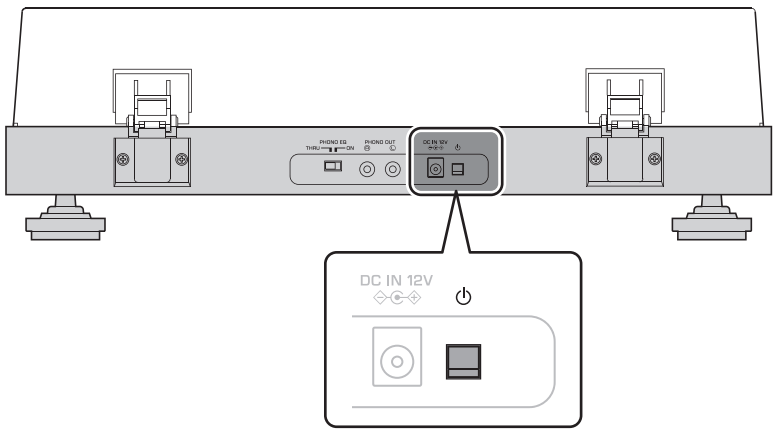
ターンテーブルが回転すると、針先には回転の中心へ引き寄せられる力が発生します。アンチスケーティングの値を針圧と同じにすることで、針先に回転の外側へ引っ張る力が発生し、それぞれの力が相殺されます。

1 **アンチスケーティングを回し、カートリッジの針圧と同じ数値に目盛を合わせます。**



電源をオンにする

本機背面の⏻(電源)を押して、本機の電源をオンにします。



再生

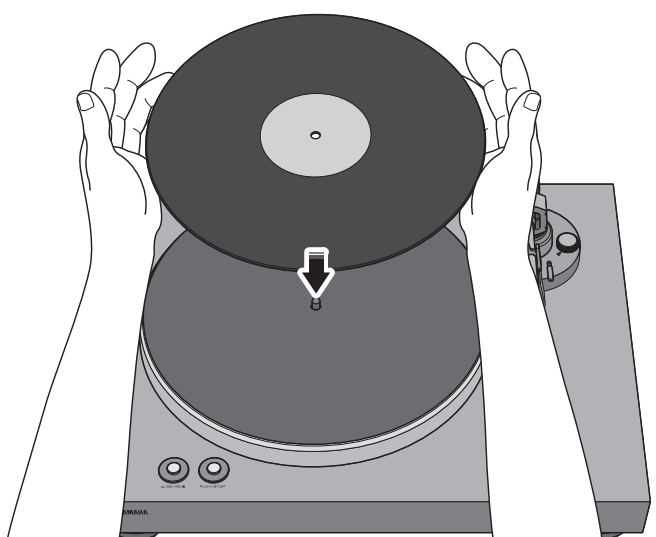
■ 再生を開始する

注意

- アンプの音量を十分下げずにレコードを再生すると、針先がレコードに触れたときに大きな音がする場合があります。聴覚障害、アンプやスピーカーの損傷の原因になりますので、必ずアンプの音量を下げてください。

1 **ダストカバーを開け、レコードをターンテーブルにのせる。**

EP盤の場合は、付属のEPアダプターを使用してください。

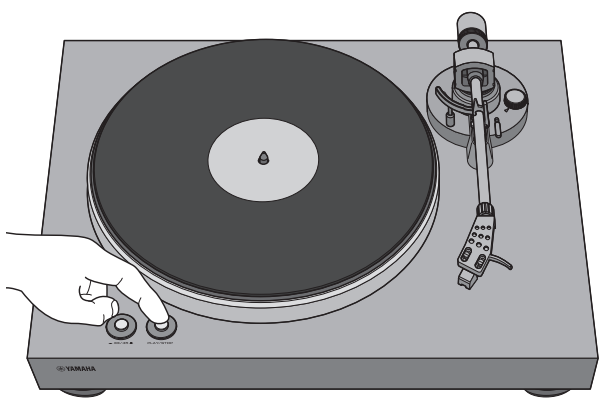


2 **33/45(回転数切り替え)を押して、レコードにあった回転数を選択する。**

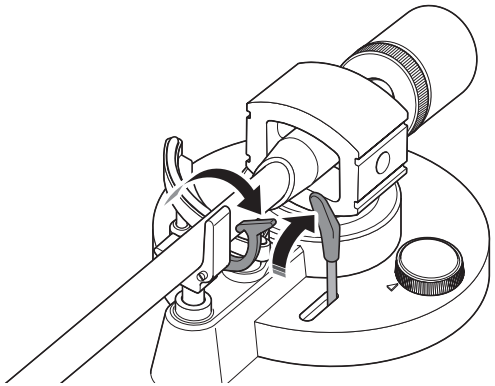
▬ : 33 1/3回転　　▬ : 45回転

3 **PLAY/STOP(再生/停止)を押す。**

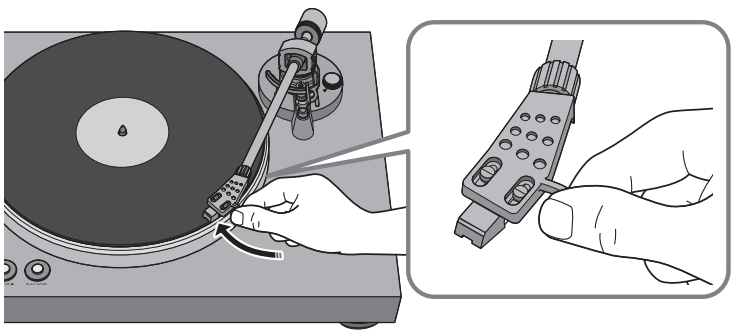
ターンテーブルが回転します。



4 トーンアームのロックを外し、リフトレバーを上げる。

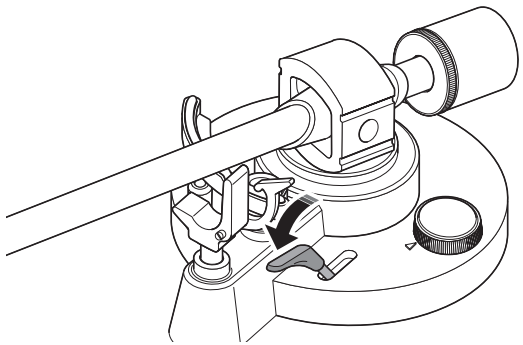


5 トーンアームをレコードの演奏位置まで移動する。



6 リフトレバーを下げる。

トーンアームが下降し、再生が始まります。



■ 再生を中断する

リフトレバーを上げるとトーンアームが上がり再生が中断します。

リフトレバーを下げると再生を再開します。

■ 再生を終了する

1 **リフトレバーを上げる。**

2 **トーンアームをアームレストに戻す。**

3 **リフトレバーを下げる。**

4 **PLAY/STOP(再生/停止)を押す。**

ターンテーブルの回転が止まります。

5 **トーンアームをロックする。**

お知らせ

- レコードの再生が終了してもトーンアームは自動で上がりません。
- しばらく本機を使用しない場合は、保護のため針先にカバーを取り付けてください。

必要なとき

お手入れする

■ 本体のお手入れ

柔らかい布で乾拭きしてください。ベンジンやシンナーなどの化学薬品は、表面を傷めてしまうおそれがありますので使用しないでください。

■ レコード針のお手入れ

レコード針の針先は非常に繊細にできています。破損させないよう丁寧に扱ってください。針先にほこりなどが付着した場合は、針の根元から先端に向かって柔らかい穂先のブラシなどで取り除くか、市販の専用クリーナーを使用してください。

■ レコードのお手入れ

レコードに汚れがつくと、音飛びやノイズの原因となります。市販のレコードクリーナーなどで汚れを拭き取ってください。

交換する

ベルトの交換

ベルトは、使用条件により劣化したり、切れたりすることがあります。その場合は、ベルトを交換してください。交換用のベルトについては、お買い上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」(ヤマハ修理ご相談センター)にお問い合わせください。

1 **本機と接続機器の電源をオフにし、本機のACアダプターをコンセントから抜く。**

2 **ターンテーブルシートをターンテーブルから外す。**

3 **プーリーからベルトを外す。**

4 **ターンテーブルの丸穴に指をかけ、ターンテーブルを持ち上げる。**

> ⚠ **注意**
>
> ◆ ターンテーブルを落とさないようにしてください。落とすと、けがをしたり、本機の損傷の原因になります。

5 **ターンテーブルを裏返して、ベルトを取り外す。**

6 **交換用のベルトをターンテーブルに取り付ける。**

ベルトがねじれないように注意してください。

7 **ターンテーブルを本体に取り付ける。**

取り付け方法については、「組み立てる」(⇨ 11ページ)をご参照ください。

レコード針の交換

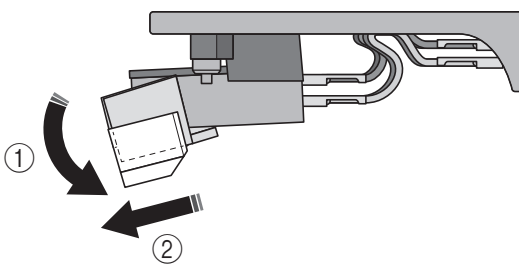
レコード針の針先が摩耗、破損した場合はすみやかに交換してください。
交換針は、オーディオテクニカ製交換針「ATN3600L」をお求めください。

注意

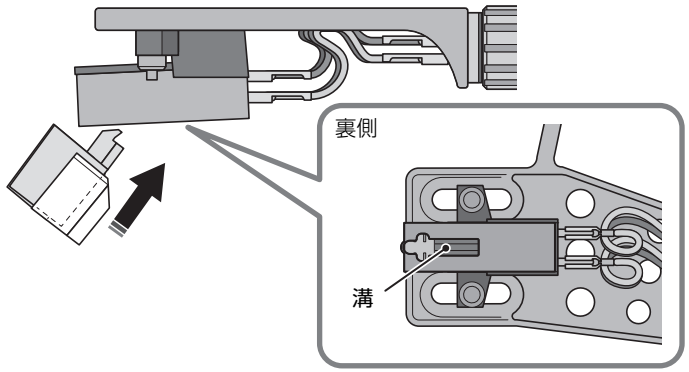
- 針先のカバーを取り付けてから交換してください。針先でけがをしたり、針先を損傷したりする恐れがあります。
- 外した針先を誤ってお子様が飲み込む恐れがありますのでご注意ください。

1 **本機と接続機器の電源をオフにし、本機のACアダプターをコンセントから抜く。**

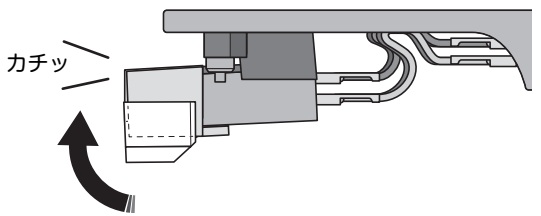
2 **カートリッジ本体を指で押さえながら、針先を①の方向に押し下げ、②の方向に引いて外す。**



3 **カートリッジ本体を指で押さえながら、交換用の針先のツメをカートリッジ裏側の溝に差し込む。**



4 **カチッと音がするまで針先を押し上げる。**



本機を移動する

本機を移動するときは、トーンアームが動かないようロックしてください。

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記をご確認ください。

対処しても正常に動作しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の背面の⏻(電源)を押して電源をオフにし、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

症状	原因	対策	参照ページ
⏻(電源)を押しても電源がオンにならない。	ACアダプターが本機のDC IN端子や家庭用コンセントから外れている、または確実に差し込まれていない。	ACアダプターを本機のDC IN端子と家庭用コンセントに確実に差し込んでください。	14
ターンテーブルが回転しない。	ベルトがターンテーブルとプーリーに正しくかかっていない、またはベルトが外れている。	ベルトをターンテーブルとプーリーに正しくかけてください。	11
	⏻(電源)がオンになっていない。	⏻(電源)をオンにしてください。	17
音が出ない。	ヘッドシェルがトーンアームに正しく取り付けられていない。	ヘッドシェルをトーンアームに正しく取り付けてください。	12
	ステレオピンケーブルが正しく接続されていない。	ステレオピンケーブルを正しく接続してください。	14
	アンプのミュート(消音)がオンになっている。	アンプのミュート(消音)をオフにしてください。	—
音量が小さい、または大きい。	アンプまたはフォノイコライザーのカートリッジ設定が正しくない。	アンプまたはフォノイコライザーのカートリッジ設定を使用するカートリッジの種類(MMまたはMC)に合わせてください。	—
	PHONO EQスイッチの設定が正しくない。	接続機器に合わせて、PHONO EQスイッチを正しく設定してください。	14
音の左右のバランスが悪い。	本機が傾いている。	本機を水平な場所に設置して下さい。	—
演奏スピードが正しくない。	回転数が正しくない。	33/45(回転数切り替え)で回転数を正しく選択してください。また、本機はSPレコード(78回転)の再生には対応していません。	18

症状	原因	対策	参照ページ
ハム音が出る。	ステレオピンケーブルが正しく接続されていない。	ステレオピンケーブルを正しく接続してください。	14
	ヘッドシェルがトーンアームにしっかり固定されていない。	ヘッドシェルをロックナットでトーンアームにしっかり固定してください。	12
音とびする。 ノイズが生じる。 音が歪む。	針圧が正しく調整されていない。	カウンターリングの目盛をカートリッジ指定の針圧に合わせてください。	15
	レコードに傷や反りがある。	傷や反りのあるレコードを使用しないでください。	—
	レコードが汚れている。	レコードの汚れを市販のクリーナーなどで拭き取ってください。	—
	レコードが静電気を帯びている。	静電気除去ブラシで静電気を除去してください。	—
	針先が汚れている。	針先の汚れを取ってください。	21
	針先が摩耗している。	針を交換してください。	22
	振動を受ける場所に本機を設置している。	外部振動を受けない、水平な場所に設置してください。	—
ハウリングが生じる。	本機がスピーカーに近すぎる。	本機とスピーカーを離して設置してください。	—
	再生音が大きすぎる。	アンプの音量を調整してください。	—

主な仕様

本機の主な仕様です。

ターンテーブル部

- 駆動方式 . . . . . ベルトドライブ
- モーター . . . . . DCモーター
- 回転数 . . . . . .33 1/3rpm、45rpm
- 回転数偏差 . . . . . ±2%
- ワウ・フラッター 0.2%
- ターンテーブル . . . . . アルミダイカスト 直径30cm

トーンアーム部

- 形式 . . . . . スタティックバランスストレートアーム
- 実効アーム長 223.5mm
- 針圧可変範囲 . . . . . .0～4g
- 適用カートリッジ質量 . . . . . .15.5～19g（ヘッドシェル含む）
- オーバーハング値 19mm

カートリッジ部

- 形式 . . . . . .MM型
- 出力電圧 . . . . . 2.5mV（1KHz、3.54cm/sec）
- 針圧 . . . . . .3.5±0.5g
- カートリッジ質量 . . . . . .5.0±0.3g
- カートリッジ高さ . . . . . .17.0±0.7mm
- ヘッドシェル質量 . . . . . .10g（ネジ、ナット、ワイヤー含む）

オーディオ部

- 出力レベル
  - PHONO EQ THRU（1kHz、3.54cm/sec） . . . . .2.5mV±3dBV
  - PHONO EQ ON . . . . . 140mV（−17dBV）
- SN比（A-weighted、20kHz LPF） 67dB以上
- 出力端子 . . . . . PHONO OUT×1（RCA Unbalanced）

総合

- ACアダプター電源
  - 入力 . . . . . AC 100-240V 50/60Hz
  - 出力 12V 0.5A
- 消費電力
  - 電源オン時 1.5W
  - 電源オフ時 0.1W
- 質量 4.8kg
- 寸法（幅×高さ×奥行き） . . . . . .450×136×368mm（脚部、突起部含む）

◆ 本書は、発行時点での最終仕様で説明しています。
最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■お客様コミュニケーションセンター
オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通） 0570-011-808

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

受付：月～金曜日 10:00～17:00
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

https://jp.yamaha.com/support/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

受付：月～金曜日 10:00～17:00
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄地域にお住まいのお客様
(06) 6649-9340

修理品お持ち込み窓口
受付：月～金曜日 10:00～17:00
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）
*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター
〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター
〒556-0011 大阪市浪速区難波中1丁目13-17
ナンバ辻本ニッセイビル7F
FAX (06) 6649-9340

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● **保証期間**
製品に添付されている保証書をご覧ください。

● **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● **修理料金の仕組み**

技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

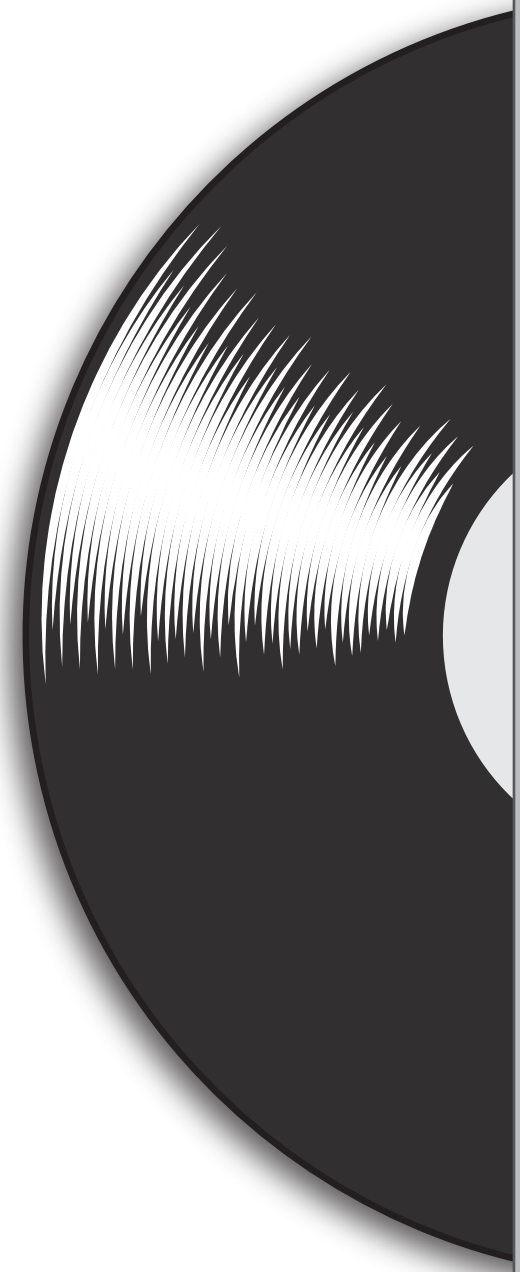
愛情点検

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650 浜松市中区中沢町10-1



ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1

Manual Development Group
© 2018 Yamaha Corporation

2018年8月 発行 IPOD-A0

AV17-0336